

1. 新技術活用状況の推移

新技術活用率（※1）は、着実に伸び、平成19年度では、31.6%を達成しました。（国土交通省行政効率化推進計画（平成16年6月15日）（※2）に掲げた目標30%を達成。）
新技術活用工事件数（※3）も年々増加し、約4,300件となりました。

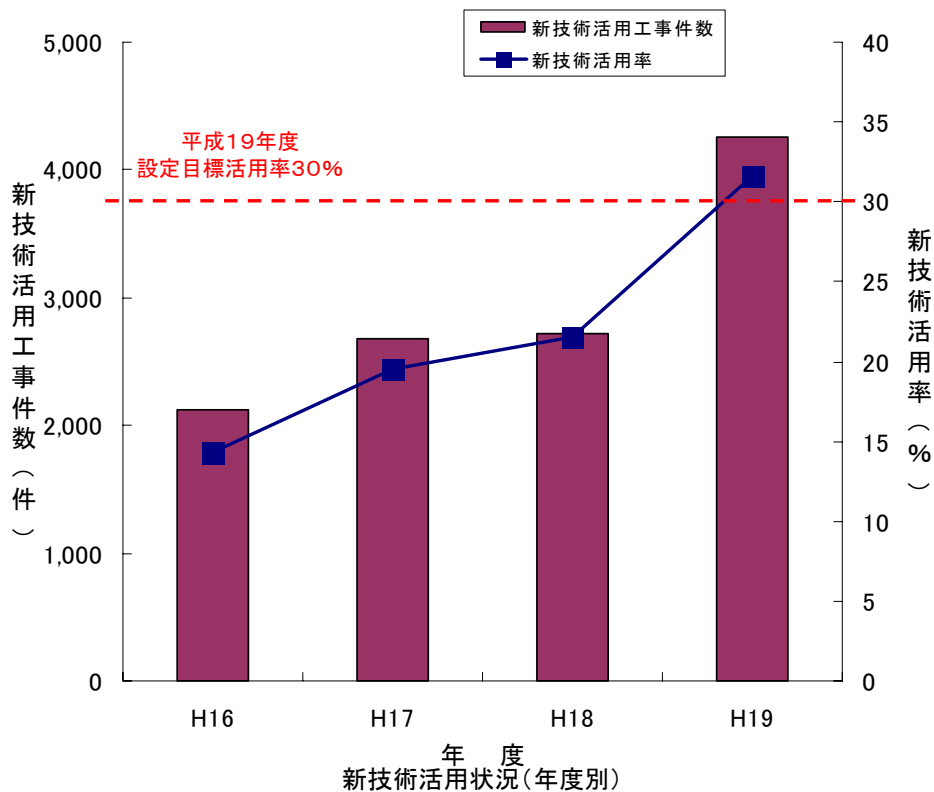
※1 新技術活用率とは、新技術を活用した工事件数を、総工事件数で除したもの。

※2 国土交通省行政効率化推進計画（平成16年6月16日）より抜粋

経済性に優れた新技術の活用を促進するため、数値目標を設定し、一定割合の工事において新技術を試行する。

（平成19年度までに新技術を試行・活用する工事件数の割合の目標を30%に設定。これを基に新技術の積極的な試行・活用を図る。）

※3 新技術活用工事件数とは、新技術を1件以上活用した工事の件数



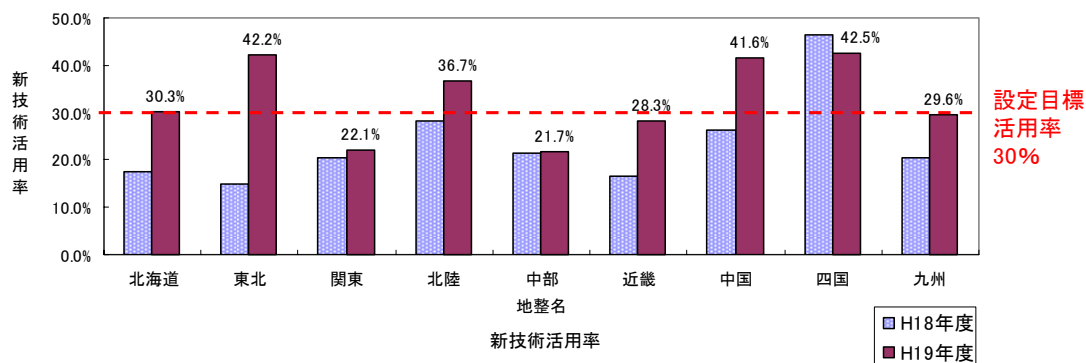
新技術活用状況（年度別）

新技術活用状況	H16	H17	H18	H19
①総工事件数	14,764	13,748	12,648	13,453
②新技術活用工事件数	2,120	2,677	2,720	4,255
③活用延べ新技術数	2,827	3,763	4,063	6,501
②/① 新技術活用率	14.4%	19.5%	21.5%	31.6%

※4 活用延べ技術数とは、総工事のなかで活用されたすべての新技術の総数

2. 各地方整備局ごとの新技術活用率

平成19年度では、すべての地方整備局において、新技術活用率が目標の30%を超えるか、平成18年度に比べて新技術活用率が伸びています。

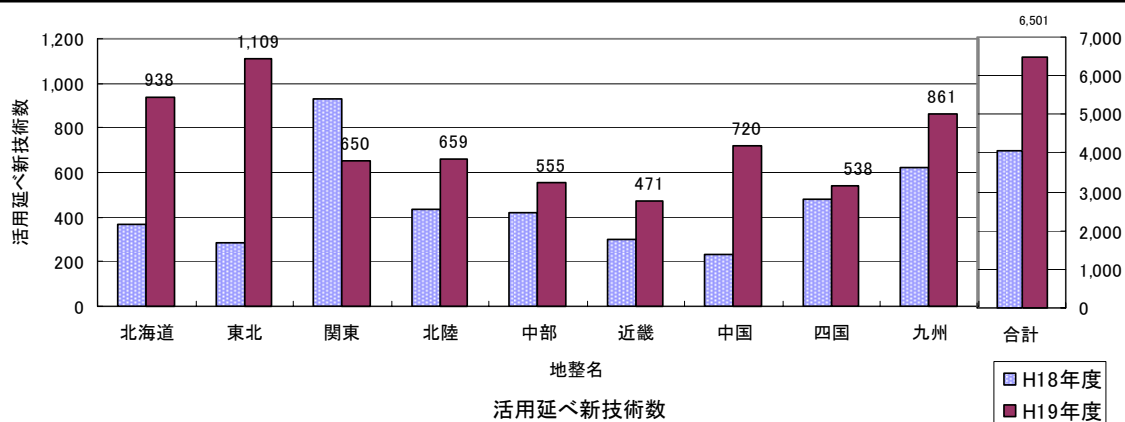


総工事件数および新技術活用工事件数(平成20年 3月末現在)

	北海道	東北	関東	北陸	中部	近畿	中国	四国	九州
H18年度新技術活用率	17.5%	14.8%	20.4%	28.3%	21.4%	16.4%	26.2%	46.3%	20.5%
①H19年度新技術活用工事件数	655	789	415	401	325	328	403	330	609
②H19年度総工事件数	2,160	1,870	1,874	1,093	1,497	1,161	968	776	2,054
③H19年度新技術活用率 (=①/②)	30.3%	42.2%	22.1%	36.7%	21.7%	28.3%	41.6%	42.5%	29.6%

3. 各地方整備局ごとの活用延べ新技術数

平成19年度の活用延べ新技術数の全地方整備局の合計は約6,500件であり、平成18年度に比べて平成19年度では、ほとんどの地方整備局で増加しています。



活用延べ技術数(平成20年 3月末現在)

	北海道	東北	関東	北陸	中部	近畿	中国	四国	九州	全地整
H18年度活用延べ新技術数	366	287	930	432	417	298	234	477	622	4,063
H19年度活用延べ新技術数	938	1,109	650	659	555	471	720	538	861	6,501

4. 新技術活用による効果

従来技術に比べて、有用な新技術が工事に用いられることによって、コスト縮減や工期短縮効果などが着実に現れています。

活用数の多い有用な技術（H19年度）

NETIS登録番号	技術名称	有用技術区分	活用による効果（活用効果評価結果による）
KT-980188-V	ガンテツパイル	H20年度推奨技術候補 設計比較対象技術	コスト縮減と工期短縮、発生土を抑制することによる、環境への影響低減が図れる
CB-980039-V	SAVEコンポーザー	H20年度推奨技術候補 設計比較対象技術	コスト縮減と工期短縮、施工性の向上が図れる
HK-030032-V	ランブルストリップス (センターライン対応型)	H20年度推奨技術候補 設計比較対象技術	コスト縮減と工期短縮が図れる
KK-980012-V	万能土質改良機による建設発生土再利用システム	H20年度活用促進技術	建設発生土を利用するため、環境への影響低減が図れる
CB-980012-V	パワーブレンダー工法 (スラリー噴射方式)	設計比較対象技術	1日の施工量が増えるので、コスト縮減と工期短縮が図れる
QS-000021-V	ローピングウォール工法	設計比較対象技術	コスト縮減と工期短縮、施工性の向上が図れる
TH-980002-V	モジュラーチ工法	設計比較対象技術	二次製品を使用するため、工期縮減、施工性の向上が図れる
CG-020023-V	PRE(ピーアールイー)緑化工法	設計比較対象技術	コスト縮減と工期短縮が図れる
CB-980067-V	ネッコチップ工法	設計比較対象技術	工期の短縮が図れる
KT-020016-V	残存化粧型枠「パットウォール」	少実績優良技術	埋設型枠を使用することにより、コスト縮減と工期短縮が図れる
HR-050017-V	高塗着スプレー塗装	少実績優良技術	コスト縮減と施工性の向上が図れる

※平成19年度 活用数上位10件

(対象：推奨技術候補, 設計比較対象技術, 少実績優良技術, 活用促進技術)

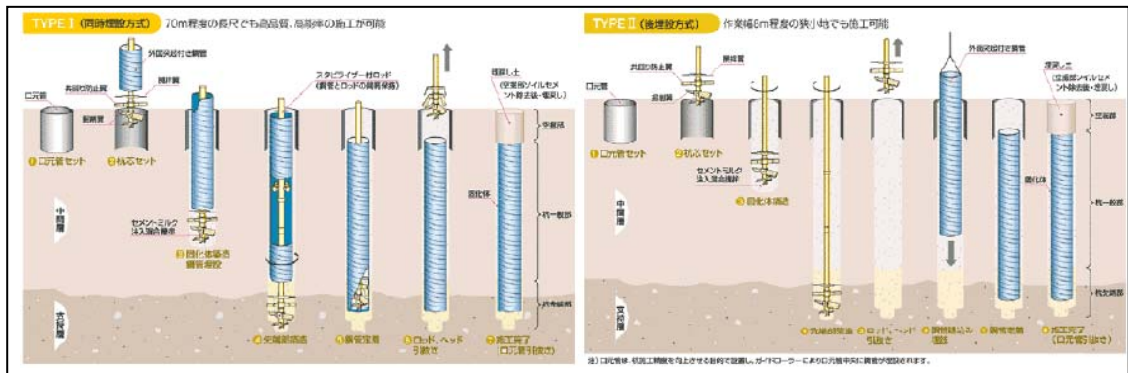
活用数の多い有用な技術の例

センターポール等に代わる新工法として、舗装路面切削による車線逸脱防止工法により、コスト縮減、工期短縮を図った「ランブルストリップス（センターライン対応型）」



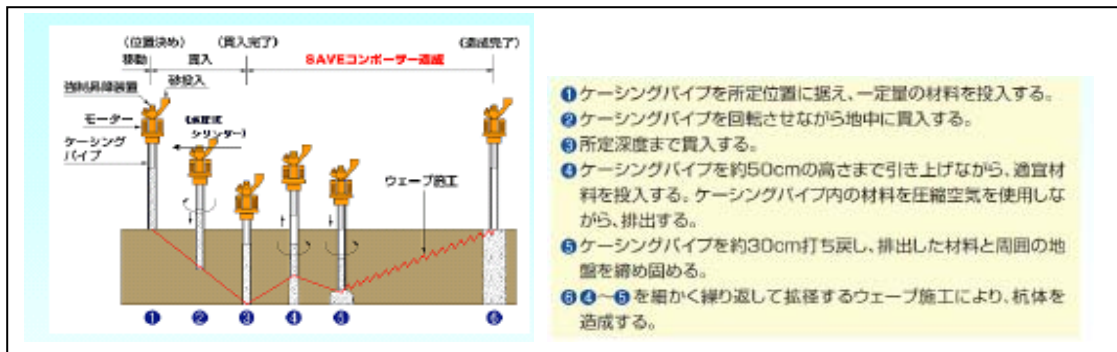
ランブルストリップス（センターライン対応型） 施工例

現場コンクリート打設に代わる新工法として、土を利用した固化体と鋼管による合成杭により、コスト縮減や廃棄物の低減を図った「ガンテツパイル」



ガンテツパイル 施工イメージ

グラベルドレーン工法に代わる新工法として、強制昇降装置を用いた砂杭によって、無振動・低騒音化や工期の短縮を図った「SAVEコンポーザー」



SAVEコンポーザー 施工イメージ